

平成23年度「異文化理解」教育プログラム事業報告

(自平成23年4月1日～至平成24年3月31日)

平成23年度数値目標

1. 実施校数	年間 200 校
2. 講義時間数	年間 1,600 時間

1 数値目標の達成

年度別実績推移

	19年度	20年度	21年度	22年度	目標・予算	実績	△+
実施校数(校)	192	206	206	199	200	226	+26
出講講師数(人)	1,030	989	967	971	—	1,032	—
講義時間数(時間)	1,546	1,609	1,553	1,603	1,600	1,717	+117
講師料(千円)	16,404	16,423	16,003	16,089	16,500	17,106	+606

実施校数及び講義時間数とも目標数値は、達成致した。期の前半は、東日本大震災の影響と思われ、前年よりも出講依頼が少ない状況だったが、下期から好調に推移した。

2 業務改善

- 1 留学生講師全員の出講可能日を毎月データで把握した。
- 2 講師データを基に、学校からの申し込み・要望に対し、可能な限り対応した。

8月より退職した青木理事・松浦に代わり、梅村・串間が事業を引継ぎ、上記の業務の改善目標を作成し、数値目標の確保に努めた結果、事業開始以来の最高数値を達成した。

従来、講師の都合のよい日が把握できない状況で出講依頼をしてきたが、10月より、このシステムを稼働し留学生の状況を把握することにより、学校の希望日に対応できるデータが整い、今まで2か月以上前に申込の締切をしていたが、締切以後でも学校希望日の対応が可能になり、下期の数値の向上が図れる要因のひとつとなった。

留学生講師とのメール連絡も頻繁になり、一人ひとりの出講状況がデータ化されたため、出講の不公平性を無くし(従来は、1年間一度も出講しない講師もいた)、留学生からも高評価を得ている。

3 「異文化理解」教育プログラムの充実

① 学校要望の強い地域の留学生講師を確保

ヨーロッパ・アフリカ・アメリカの地域の留学生を「英語活動」講師から兼任講師として面接し、以下の国の講師を新年度に登録した。

アルジェリア・メキシコ・イラン・ベルギー

② 高等学校の実施校が増加

今年度顕著に数字が伸びた原因の一つに、高校の実施校の増加がある。生徒からの感想文にも「チャレンジ精神・夢・人生は一度・自分を信じる」等、協会のプログラムがキャリア教育に通じる面が認められたと推測する。

	平成 22 年度	平成 23 年度
小学校	41 校(21%)	46 校(20%)
中学校	125 校(63%)	136 校(59%)
高等学校	30 校(15%)	42 校(18%)

4 募集大学との連携強化

毎年留学生講師募集にご協力頂いている大学で特に留学生が多く、応募数が多い大学の2校(一橋大学・早稲田大学)を新たに寄付金対象大学として、より一層の募集協力を依頼した。

5 事務局の対応力・調整力の向上

① 申込から講師選定の迅速化

勘と経験による作業から、留学生講師の出講可能日をデータ化し、学校の申し込みに對应的確に対応できる体制を目指した。

② 富山常務理事・堀内シニアアドバイザーの学校へのアプローチ効果

留学生講師の指導の他に、学校長や担当者へのプログラム導入の説明努力が、実り、次年度への継続実施に結び付いてきている。

③ ホームページの改善

新規の申込校の為に「講義申込書」の発行をわかりやすく改善し、電話での問い合わせに対し、ホームページの利用を促進し、対応した。

④ 留学生講師の遅刻対策

講師派遣での一番大きな問題は、講師の遅刻であり、学校に迷惑をかけ、講師も講

義に対して熱が入らない状況となるため、以下の対策を講じた。

- 1 学校の最寄駅から学校までが遠い学校に対しては、留学生が迷子にならない様駅までの出迎えを依頼し、ほとんどの学校が対応した。
- 2 協会の職員が同行する時は、学校待ち合わせではなく、駅改札口などに変更し、留学生が遅刻した場合、早めの対応ができるようにした。
- 3 出講の前日に電話で確認する際に、学校名・待ち合わせ場所・授業時間などの再確認を行った。

6. 学校の評価

講義実施後アンケート用紙が協会宛に送付され、講師の講義内容や、協会事務局の対応について評価が記入されている。その際に協会へのお礼状と留学生講師へのお礼状が同封されるケースがあり、留学生講師には、アンケート用紙と生徒からのお礼状は転送している。

- 1 実施校からのアンケート用紙と講師評価データ
- 2 実施校からのお礼状
- 3 生徒からのお礼状

7. 平成 24 年度の体制

平成 24 年度は、新人講師 28 名を登録し、100 名体制となった。登録数では前年度より 11 名減少したが、23 年度に実質的に講師として活動できたのは、約 90 名であり、特に問題はない。

学校に提出する新人「講師プロフィール」例

以上